

# 災害のときこそ を取り合って

～避難所運営ゲーム(HUG)を通して自分にできることを考えよう～



## 開催日時

令和元年 10月7日(金) 午後2時～午後4時  
多摩市民館 3階 大会議室  
参加者：45名

## プログラム

- 1 防災講話
- 2 グループワーク  
(避難所運営ゲーム<HUG>)
- 3 まとめ

## 講演者

多摩区役所危機管理担当 課長補佐 青柳 努 氏

## コーディネーター

公立大学法人山梨県立大学 講師 高木 寛之 氏



## 本講座のねらい



福祉に関心を持ってもらい、福祉についての理解者・支援者(ボランティア等)を増やすためのきっかけになるように、そして参加された方がこのセミナーで得た気付きを地域に広げることを目的として開催しました。

今回の開催にあたっては災害をテーマに、災害講話だけではなく、避難所運営ゲームを通じて、実際の避難所で起き得る状況を学び、また高齢者や障害者等様々な立場の避難者が共に過ごしていくためにはどうすればいいか、参加者同士で意見交換しながら自分自身で考えていただく機会を作りました。



## 講話

多摩区役所危機管理担当 課長補佐 青柳 努 氏より、東日本大震災や熊本地震、平成 30 年 7 月豪雨へ派遣された経験を基に、被災地の実状や経験を通じて感じたこと、地域の皆さんに知っていただきたいことなどをお話していただきました。

### お話の一部抜粋

？ 避難所ってどういう時に行けばいいの？



避難所は、被災したら必ず行かなければならない場所ではありません。被災して自宅に被害が出たので自宅での生活が難しい方、自宅にいると危害が及ぶ恐れがある方、被災後に一人で避難するのが難しい高齢者や障害者の方など、命に危険が及ぶような場合は避難所に限らず安全な場所に避難していただく必要がありますが、被災しても自宅で生活することができるような方は、無理に避難する必要はありません。

？ 被災地に行った中で感じた、今私たちにできることって？

実は被災地で一番困るのは食事ではなく…トイレなんです。水が流せない状態でトイレを使用すると、トイレがとても不衛生な状態になり、感染症の原因にもなります。そのため、各ご家庭で簡易トイレを準備しておいたり、普段から簡易トイレの使い方を確認しておく、被災された時に役立つと思います。



お話の他に、参加者の皆さんには川崎市が作成したハザードマップや災害対策情報を集約した冊子など、災害対策に役立つ資料を配布していただきました。





## ? 避難所運営ゲーム(HUG)とは

避難所運営ゲーム (HUG) は、住民が避難所運営を主体的に考えるためのツールで、避難所で起こるいろいろトラブルなどにどう対応していくかを模擬体験するゲームです。このゲームを通じて、実際の避難所で起き得る状況を知ることが出来ます。

今回のセミナーでは、川崎版に改良された HUG(KAWAHUG) を使いました。KAWAHUG では、川崎市の避難所運営の基本ルールや実際の避難所の備蓄が反映され、避難者カードも、車移動の人数を減らし、外国人や要配慮者が多めに含まれています。



## ★ グループワーク(避難所運営ゲーム<HUG>)

参加者の皆様に、お住まいの地域ごとのグループに分かれていただき、実際に避難所運営ゲーム (HUG) をやっていただきました。



今回は9グループに分かれてゲームを実施しましたが、どのグループでも避難者カードをどのように配置するか、避難所のルールをどのようにするかなど、とても悩まれていました。

グループごとに避難所のルールや避難者の配置の仕方は異なっており、ゲーム終了後に他のグループの配置の仕方を見学していただくことで、実際に被災した際も避難所ごとにルールが異なり、避難所の運営方法に正解はないということを体感していただきました。

避難所運営ゲーム (HUG) が終わった後は、各グループからやってみての所感や、課題だと思ったことなどを報告していただきました。



**青柳氏より…**

本日参加された皆様は、このセミナーで正しい避難所の運営方法について解説されるのではないかと期待されていた方も多いと思います。しかし、私は今まで実際に被災地で様々な避難所の運営を担当してきましたが、避難所1つ1つがまったく違うやり方で運営されていました。今日も9つのグループに分かれて避難所の運営をしていただきましたが、それぞれのグループで全然違うルールで避難所ができていますよね。避難所の運営方法には「絶対にこうしなければならない」というルールは無く、避難所ごとの設備や避難所運営に携わっている方、または避難された方によって変わってきます。

今日は皆様から色々なご意見をいただきましたので、後日行われる防災担当者会議の場で共有させていただければと思います。



**高木氏より…**

避難所運営は場所によってやり方が違いますが、大事なのは「これは許せる」という部分を見つけることだと思います。「許せないこと」を見つけるのはとても簡単ですが、許せないことばかりを挙げていくと、避難所の中がとても殺伐とした雰囲気になってしまいます。特に川崎市の場合は地方と違って、日ごろご近所の方と関わる機会が少ない方も多いと思いますので、避難所の雰囲気が悪くならないようにするのは大切なことです。例えば、今回のゲームでは、ペットをどうするのか、喫煙所をどうするのか、子どもの泣き声にどう対応するのか、障害当事者への配慮はどうするのか…といった課題がたくさんありました。

また、今回のゲームでは、避難者は何も持たずに着の身着のまま避難しているケースが非常に多かったですね。果たしてこのままでいいのか？避難するとき何を持参したらいいのか？災害に備えて何を確認しておくべきなのか？…今回のHUGを通じて分かったと思いますので、ぜひ今後活かしてみてください。



**参加者の声**

- ・今まで気付かなかった問題点などが沢山あることに気付いた。今後の防災に役立てたい。
- ・災害時の避難所の運営方法について、様々な事例があり、大変勉強になりました。
- ・ゲームでたった90人近くの避難者をどうするか考えるだけでも、とっても大変でした。実際に起こったら…と考えると不安です。
- ・実際に体験してみないとわからない事が多いと思いました。今後の活動に繋がりたいと思いました。
- ・地域との関わり、助け合いの気持ちが大切だと思います。自分にできることを考えてみたいと思います。